

2025年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：山田盛朗（2019年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：PCM手法を活用した学生参画型スノーボード実習モデルの開発と有用性の検証

研究課題1：PCM手法を活用した学生参画型スノーボード実習モデルの設計と実践を通じた課題の把握

研究課題2-1：PCM手法を活用した学生参画型スノーボード実習モデルの再設計

研究課題2-2：PCM手法を活用した学生参画型スノーボード実習モデルのプログラム評価

研究課題2-3：PCM手法を活用した学生参画型スノーボード実習モデルの学修成果の検討

●学位論文：「PCM手法を活用した学生参加型スノーボード実習モデルの開発と有用性の検証」（2026年3月修了）

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

2025 年度 研究の進捗状況（鹿屋体育大学所属生）

氏名：森 実由樹（2019 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：体育系大学新生における入学時のスポーツ外傷・障害の実態
～高校現役引退から大学スポーツに参加するまでの過ごし方に着目して～

研究課題1：大学スポーツに参加するまでの過ごし方が、体育系大学新生整形外科的メ
ディカルチェックの結果に与える影響を明らかにする

研究課題2：入学前コンディショニングが、体育系大学新生メディカルチェックに与え
る影響を明らかにする

●論文作成

なし

●学会発表

森 実由樹, 山本利春, 笠原政志, 清水伸子, 児玉菜摘

体育系大学におけるスポーツ傷害予防のための新生フィジカルチェックの取り組み

第 50 回日本運動療法学会学術集会、2025 年 6 月

山本利春, 森実由樹, 笠原政志, 清水伸子

傷害予防とリコディショニングを目的とした新生フィジカルチェックの取り組み

第 63 回全校大学保健管理研究集会、福島、2025 年 9 月

●その他

第 50 回日本運動療法学会学術集会 最優秀演題 受賞

以上

2025年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：今城 遥（2020年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：高等教育における Andragogy 理論に基づく「共生体育」授業の実践

研究課題Ⅰ：成人教育であるアンドラゴジー理論に基づく共生体育についての検討をおこなう

授業実践を通してペダゴジーとアンドラゴジーの「共生体育」の違いを明らかにする

研究課題Ⅱ：アンドラゴジー理論に基づく「共生体育」授業を設計・実践し、その効果を検証する

研究課題Ⅲ：「共生体育」授業を受講することによる多様性に関する意識・態度・行動に及ぼす影響について検討する

●論文作成

1. 中川雅智、今城遥、教員養成課程における異学年合同授業に関する実践研究
(ア) — 模擬授業後の省察の違いに着目して —、聖カタリナ大学人間文化研究所紀要第28号、2023年
2. 今城遥、共生社会の実現を目指した障がい者スポーツ振興のための実態調査
(ア) — 持続可能なマッチング支援に向けた人的資源に着目して —、聖カタリナ大学紀要第36号、2024年

●学会発表

1. 今城遥、長谷川悦示、齋藤拓真：学習者の立場の違いが共生体育授業のゲームルール評価に及ぼす影響、日本スポーツ教育学会、2023年9月24日
2. 今城遥、長谷川悦示、齋藤拓真：ボール運動・球技のゲームルールに関する学習者評価の検討、日本体育科教育学会、2023年7月9日
3. 今城遥：共生社会の実現を目指した障がい者スポーツ振興のための実態調査 — 持続可能なマッチング支援に向けた人的資源に着目して —、日本体育スポーツ健康学会、2023年9月1日
4. 今城遥、松本有記：障がいのある人との交流体験が参加形態による「障害理解」「スポーツの価値」「パラスポーツのイメージ」に与える影響、日本アダプテッド・スポーツ学会、2024年12月8日

●その他

以上

2025年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：北村麻衣（2020年度入学）

- 博士論文の研究計画の全体像

表題：女子バスケットボール日本トップ選手のキャリア発達と大学スポーツの関与に関する研究

研究課題1：元WJBL選手対象の多様な進路・キャリア選択に関するインタビュー調査
研究課題2：現役WJBL選手のセルフマネジメントスキルやキャリアの準備性に関する心理尺度調査

- 論文作成

なし

- 学会発表

なし

- その他

なし

以上

2025年度 研究の進捗状況（鹿屋体育大学所属生）

氏名：西園聡史（2021年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学サッカーの守備におけるボール奪取時の認知に関する事例的研究：
グループ戦術に着目して

第1章 文献研究

第1節 大学サッカーにおける守備戦術に関する研究動向

第2節 大学サッカーの守備におけるボール奪取時の認知に関する研究動向：
認知モデルに着目して

第2章 事例研究

第1節（研究課題1）サッカーにおけるボール奪取を目指したグループ戦術が成就する
ための認知的なポイントの探索：失敗・成功時における大学選手間の認知様相
の違いを手がかりに

●論文作成

・西園 聡史, 金高 宏文, 田村 達也, 山平 芳美, 高橋 仁大

「サッカーにおけるボール奪取を目指したグループ戦術が成就するための認知的なポイントの探索：失敗・成功時における大学選手間の認知様相の違いを手がかりに」

日本スポーツパフォーマンス学会 スポーツパフォーマンス研究, 17: 421-436, 2025.

・論文の種別：事例研究

・掲載日：2025年12月10日

以上

2025年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：阿部隆行（2022年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：休養学を基盤としたコンディショニング教育プログラムの開発と検証

研究課題Ⅰ：大学におけるコンディショニング教育プログラム開発のための基礎的研究

①玉川学園における全人教育「健」の教育について

②大学生の休養に関する行動や意識に関する実態調査

研究課題Ⅱ：コンディショニング教育プログラムの開発と検証

①一般学生向けコンディショニング教育プログラム

②大学生アスリート向けコンディショニング教育プログラム

●論文作成

なし

●学会発表

1. 成家篤史，石塚諭，阿部隆行，体育の学習指導論の変遷に関する研究～2016年以降の学習指導論に着目して～，日本体育・スポーツ・健康学会，2025

●その他

1. 書籍「体育 7.0～シン・自分になるための越境的な体育」，成家篤史・石塚諭・阿部隆行・大熊誠二，大学教育出版，2025

以上

2025年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：堀口 文（2022年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学体育における体づくり運動の学習プログラムの開発：

身体活動における自己管理能力の向上に着目して

研究課題1：体づくり運動および一般体操に関する文献調査・実態調査

研究課題2：身体活動における自己管理能力の向上を目指した学習プログラムの開発

研究課題3：学習プログラムの実施とその効果検証

●論文作成

1. 堀口 文，高木英樹，木内敦詞，松浦 稜，高橋靖彦，前原千佳，金谷麻理子：
身体活動自己管理能力の向上を目指した大学体育授業-体づくり運動を基盤とした実
技・講義・宿題によるハイブリッド型授業の効果-。大学体育スポーツ学研究 23(公開
待ち)，2026。
2026年1月30日 受理

●学会発表

1. 堀口 文，本谷 聡，狩野莉奈，高橋靖彦，森本朝子，我喜屋佑衣：世界ラート競技
団体選手権 2025 における国際的な競技動向について。日本体操学会第 25 回大会，
2025 年 9 月 27 日。
2. 本谷 聡，木内敦詞，永田真一，狩野莉奈，堀口 文，我喜屋佑衣：開発した姿勢体
操の内容妥当性に関するデルファイ法による検証。日本体操学会第 25 回大会，2025
年 9 月 27 日。
3. 狩野莉奈，本谷 聡，堀口 文，我喜屋佑衣，森本朝子：Internationales Deutsches
Turnfest Leipzig 2025 のイベント概要に関する現地調査。日本体操学会第 25 回大
会，2025 年 9 月 27 日。
4. 堀口 文，高木英樹，木内敦詞，松浦 稜，高橋靖彦，前原千佳，金谷麻理子：表題
実技・講義・宿題を統合したハイブリッド型授業の効果-大学生の身体活動自己管理能
力と身体活動量の変化に着目して-。第 14 回大学体育スポーツ研究フォーラム，2026
年 3 月 16 日。

5. 加畑 碧, 松浦稜, 堀口 文, 狩野莉奈, 本間三和子: 自己主導型の個別課題練習に基づく体育実技授業モデルの開発. 第 14 回大学体育スポーツ研究フォーラム, 2026 年 3 月 16 日.

●その他
なし

以上

2025年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：笠原春香（2023年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：我が国の大学スポーツ振興に向けた大学内スポーツ統括部局の組織変革プロセスに関する基礎的研究

研究課題1：大学内スポーツ統括部局の構築過程における組織構造はどのように評価できるか-組織構造の主三側面の観点から-

研究課題2：日本の大学内スポーツ統括部局設置の組織変革プロセスはどのような変化マネジメントの下に行われるのか-コッターの組織変革8段階プロセス理論を用いて-

●学位論文：「A Basic Study on the Organizational Change Process of the Governing Department for Athletics for the Development of University Athletics in Japan」（2026年3月修了）

●論文作成

1. Kasahara, H., Yamada, S., Rakwal, R., & Matsuo, H. (2022). Unraveling the Current Issues in and Defining the Status of University Athletics in Japan: A Scoping Study. *Asian Sport Management Review, 16, 45-59.*

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

2025年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：加畑 碧（2023年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：自己主導型の個別課題練習（SRDP）に基づく体育実技授業モデルの開発
－ICTを活用した大学専門体育における実証的検討－

研究課題1：映像フィードバックの多角的な効果検証

研究課題2：SRDP型授業の実践的検証

●学位論文：「自己主導型の個別課題練習（SRDP）に基づく体育実技授業モデルの開発 －ICTを活用した大学専門体育における実証的検討－」（2026年3月修了）

●論文作成

1. 加畑碧, 本間三和子, 坂入洋右, 雨宮怜, 松浦稜: 運動課題への主体的な取り組みを促進させる映像フィードバックの活用: 体操研究, 18: 77-90, 2025.
2. 松浦稜, 木内敦詞, 檜皮貴子, 加畑碧, 長谷川聖修: 生活行動の中で実践できるストレッチが気分にあぼす影響 二次元気分尺度を用いて: 体操研究, 18: 62-76, 2025.

●学会発表

1. 加畑碧, 松浦稜: 保育者養成課程学生を対象とした教養科目「健康・運動実技」の実践報告: 日本体操学会第25回大会, 2025年9月27日.
2. 加畑碧, 松浦稜, 堀口文, 狩野莉奈, 本間三和子: 自己主導型の個別課題練習に基づく体育実技授業モデルの開発: 第14回大学体育スポーツ研究フォーラム, 2026年3月16日.

●その他

なし

以上

2025 年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：鍋山隆弘（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：社会人基礎力の獲得を促す PBL 型大学体育剣道授業の開発

研究課題 1：大学体育剣道授業の受講を通じた社会人基礎力獲得の特徴分析

研究課題 2：社会人基礎力の獲得を意図した PBL 型剣道授業の設計

研究課題 3：PBL 型大学体育剣道授業の教育効果検証

●学位論文：「社会人基礎力の獲得を促す PBL 型大学体育剣道授業の開発」 (2026 年 3 月修了)

●論文作成

1. 鍋山隆弘, 奈良隆章, 坂本昭裕 (2025) 社会人基礎力の獲得を意図した PBL 型授業の設計. スポーツパフォーマンス研究, 17: 271-283.

●学会発表

1. 鍋山隆弘, 奈良隆章, コダトマリナ, 坂本昭裕 (2025) PBL 型剣道授業を通じた社会人基礎力育成の実証的研究. 第 11 回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 東京, 2025 年 7 月.

●その他

なし

以上

2025 年度 研究の進捗状況（鹿屋体育大学所属生）

氏名：中谷太希（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

【表題】

動感促発能力の充実度を確認・可視化する実践的ループリック：
選手から指導者へ移行した 10 年間の体操競技の技の指導事例から

研究課題 1：動感促発能力の充実度を確認する観点は何か？

研究課題 2：筆者の動感への関与はどのように変容してきたのか？

研究課題 3：動感促発能力の充実度はどのように確認・可視化できるのか？

●学位論文：「動感促発能力の充実度を確認・可視化する実践的ループリック：選手から指導者へ移行した 10 年間の体操競技の技の指導事例から」（2026 年 3 月修了）

●論文作成
なし

●学会発表
なし

●その他
なし

以上

2025 年度 研究の進捗状況（鹿屋体育大学所属生）

氏名：廣瀬恒平（2023 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：15 人制ラグビーにおける防御戦術の立案および検証に関する実践研究：大学ラグビーチームにおける事例を例証として

研究課題 I：ブレイクダウンの防御戦術に着目した、タックルおよびラックにおけるプレー成功要因の調査

研究課題 2：対象チームに適すると仮定されるブレイクダウンに関する防御戦術の立案と、導入および実践

研究課題 3：戦術によるゲームへの影響の調査および戦術の立案過程や内容、導入方法の検証

●学位論文：「15 人制ラグビーにおける防御戦術の立案および検証に関する実践研究：大学ラグビーチームにおける事例を例証として」（2026年3月修了）

●学会発表

1. 廣瀬恒平, 千葉剛, 澤田大地, 高橋仁大.

「ラグビーの防御戦術に関する有効性の実践的検証」

千葉県体育学会令和 7 年度第 1 回学会大会（千葉大学）, 2025.

2. 廣瀬恒平.

「ディフェンスにおけるゲームパフォーマンス分析」

ラグビー研究協議会 2025（日本ラグビーフットボール協会）, 2025.

3. 廣瀬恒平, 高橋仁大.

「15 人制ラグビーの防御局面に関する戦術研究 - N 大学にける実践的検証 -」

日本体育・スポーツ・健康学会第 75 回大会（日本体育大学）, 2025.

4. 廣瀬恒平, 千葉剛, 澤田大地, 高橋仁大.

「ラグビーの防御におけるラック参加に関する実践研究」

千葉県体育学会令和 7 年度第 2 回学会大会（帝京平成大学）, 2025.

5. 廣瀬恒平, 千葉剛, 高橋仁大.

「15 人制ラグビーのブレイクダウン局面における防御戦術に関する実践的検証」

日本コーチング学会第 37 回学会大会（日本大学）, 2026.

●その他

なし

以上

2025 年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：井上 陽（2024 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題： 大学が主催する観戦型スポーツイベントとしてのホームゲームがもたらす社会的価値-社会的投資収益率(SROI)を用いて-

研究課題 1：SROI を用いたスポーツの社会的価値を評価する手法を観戦型スポーツへ応用するために、質的調査手法を明確化する

研究課題 2：SROI を用いたスポーツの社会的価値を評価する手法を観戦型スポーツへ応用するために、量的調査手法を明確化する

●論文作成

1. Sumei H, Genboku Takahashi, Yoh I, Yuka A, and Randeep R: Designing a Summer Yoga Camp for Graduate Student's: The Need for Communicating Issues and Understanding Self for Navigating Academic and Life-related Issues , *Journal of Yoga and Physiotherapy*, 11(2), 2024.6.11
2. 井上陽: スポーツを通じて人々の繋がりを深め、成長と挑戦を支える教育実践記録、*大学体育研究*、29-33、2025. (早期公開)

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

2025 年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：高橋達己（2024 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：学修者の協働性を促進する大学体育授業に関する研究

研究課題1：協働的な学習に関する諸理論を整理し、大学体育での位置づけを検討する

研究課題2：協働性を測定する尺度を開発し、具体的な指導法について検討する

研究課題3：協働的な大学体育授業が大学生の協働性に及ぼす影響とその変容過程を明らかにする

●論文作成

なし

●学会発表

1. 高橋達己, 渡邊仁, 坂本昭裕, 野外教育の場としての森林の役割. 第 137 回日本森林学会大会, 2026 年 3 月 19 日

●その他

1. 大学体育授業における協働性促進モデルの開発と実証: 野外運動を題材として. 日本学術振興会, 科学研究費助成事業基盤研究(C) (一般), 2025—2029 年度, 4,680,000 円

以上

2025 年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：曹 暢（2024 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：留学生の大学スポーツ参加が大学生活への適応に及ぼす影響

研究課題 1：幸福感と適応感の 2 つの尺度を用い、留学生と日本人学生の現状を記述的に把握する。また、両者がどのような形態でスポーツと関わり、どのような体育授業を求めているのか、日本人学生の関与と交流に関する意識について調査票を作成し、データを収集する。

研究課題 2：収集したデータを分析し、留学生の大学生活への適応を高める体育授業等のスポーツ特徴と日本人学生の関与と交流が果たす役割を検討する。

研究課題 3：課題 2 の結果を受けて、量的データでは捉えにくい「適応を阻む要因」や「スポーツに求めるもの」を深掘りするため、インタビュー調査を実施する。

研究課題 4：課題 1、2、3 の知見を統合し、留学生の適応を支える体育授業・スポーツプログラムを試行し、効果が出るかを複数の指標で確かめる。

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム

以上

2025 年度 研究の進捗状況（鹿屋体育大学所属生）

氏名：川崎百合香（2024 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題：現代的なリズムのダンスの「リズムに乗って全身で自由に踊る」ことを
ねらいとした教材・指導法モデルの構築

研究課題1：「現代的なリズムのダンス」の授業における「技能」の指導上の課題
に関する調査

研究課題2：「現代的なリズムのダンス」の教材および指導法モデルの構築

研究課題3：学校現場における教材及び指導法モデルの有効性の検証

研究課題4：教員養成段階における教材及び指導法モデルの活用可能性の検討

●論文作成

なし

●学会発表

1. 川崎百合香，梶ちか子

”リズムに乗れる”テンポを探る－BPM とダンス動作の関係－
九州体育・スポーツ学会第 74 回大会，2025 年 9 月 6 日

2. 川崎百合香，梶ちか子

中学校ダンス領域の「現代的なリズムのダンス」の授業における「技能」指導
に関する調査
九州体育・スポーツ学会第 74 回大会（研究推進委員企画セッション），2025 年 9 月 7 日

●その他

<受賞>

1. 川崎百合香，梶ちか子

”リズムに乗れる”テンポを探る－BPM とダンス動作の関係－
九州体育・スポーツ学会第 74 回大会，2025 年 9 月 6 日，若手優秀発表賞

以上

2025 年度 研究の進捗状況（鹿屋体育大学所属生）

氏名：坂尾美穂（2024 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学女子サッカーチームにおける「プレーテンポ」データ活用の有用性について：
攻撃力向上を目指した事例を対象に

課題1：

「プレーテンポ」データの試合毎の変動性とパフォーマンス評価指標としての可能性

課題2：

「プレーテンポ」と得点機会創出の関連性

課題3：

実践現場における「プレーテンポ」の変化と背景の検討

●論文作成

1. 坂尾美穂, 高橋仁大：大学女子サッカーチームの公益力向上に関する探索的研究：ボールポゼッションの展開エリアとパスのテンポに着目して. スポーツパフォーマンス研究, 17：327-339, 2025.（原著：査読有）

●学会発表

1. 坂尾美穂, 高橋仁大：サッカーのリーグ内レベル差による得点機会創出エリア侵入頻度の違い（大学女子サッカーチームを対象に）, 日本フットボール学会第 22 回学会大会, 2025 年 3 月
2. 坂尾美穂, 高橋仁大：大学女子サッカーチームにおけるパスのテンポに関する事例的研究, 日本フットボール学会第 23 回学会大会, 2026 年 1 月

●その他

なし

以上

2025 年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：向後佑香（2025 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：大学体育における聴覚障害学生支援に関する実践的研究-修学困難感尺度の作成と評価-

研究課題1：聴覚障害学生の体育・スポーツに関する困難感の概念整理

研究課題2：聴覚障害学生の大学体育受講に伴う困難感の尺度開発

研究課題3：開発した教材を用いた授業実践の評価、検証

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

1. 向後佑香：大学体育授業における聴覚障害学生支援教材の開発。日本学術振興会.科研費基盤 (C) (課題番号：25K14761、研究期間：2025～2029 年度)

以上

2025 年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：鈴木寛康（2025 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表 題：保育者コンピテンシーの獲得をめざした短期大学体育授業の開発
ー自己調整学習方略を用いてー

研究課題 1：短期大学体育授業で獲得される保育者コンピテンシーの測定尺度の開発

研究課題 2：保育者コンピテンシー獲得をめざした体育授業プログラムの開発

研究課題 3：自己調整学習を用いた体育授業が保育者コンピテンシーの獲得に及ぼす影響

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

2025 年度 研究の進捗状況（筑波大学所属生）

氏名：永井将史（2025 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：インストラクショナルデザインに基づく能動的学修を意図したスノースポーツ実習に関する研究

研究課題1：大学体育における能動的学修とIDを用いた授業改善に関する理論検討、スノースポーツ実習の授業設計の実態と課題の整理

研究課題2：IDを用いたスノースポーツ実習の授業設計と評価指標の作成

研究課題3：スノースポーツ実習の実践と効果検証

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

2025 年度 研究の進捗状況（鹿屋体育大学所属生）

氏名：伊東裕希（2025 年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：スポーツ指導者の指導観に関する質的研究～構造および形成プロセスの検討～

課題1：若手コーチの指導観構造モデルの検討

課題2：若手コーチの指導観形成プロセスの検討

課題3：全国トップレベルの指導者の指導観モデルの検討

●論文作成

なし

●学会発表

なし

●その他

なし

以上

2025年度 研究の進捗状況（鹿屋体育大学所属生）

氏名：松永武人（2025年度入学）

●博士論文の研究計画の全体像

表題：資質・能力の往還による保健体育科教育法のプログラム作成

－自己の核に迫る資質への追求に焦点を当てて－

課題1：本研究の課題把握と省察プログラムの開発

1-1：体育系大学の教員養成課程における「教科の指導法」に関する授業のシラバス調査

1-2：体育系大学の教員養成課程における省察プログラムの骨子案の作成

1-3：教員養成を担う体育系大学教師への省察プログラムインタビュー調査

課題2：省察プログラムを導入した授業実践の成果と課題の検討

2-1：省察プログラムの授業実践「教科の指導法」の各段階による省察の深まりの変容

2-2：省察プログラムの授業実践「教科の指導法」を通じた省察の深化傾向

課題3：成果と課題を踏まえた省察プログラムの構築化の検討

●論文作成

1. 「体育系大学の教員養成課程における『教科の指導法』に関する授業のシラバス調査－鹿屋体育大学の保健体育科教育法Ⅰ～Ⅳにおける省察プログラムの導入に向けて－」

鹿屋体育大学学術研究紀要，研究ノート63, 38-50 2025年10月.

●学会発表

1. 体育系大学の教員養成課程における「教科の指導法」に関する授業のシラバス調査－「コア・リフレクション」を通じた省察プログラムの導入に向けて－

日本体育科教育学会第30回大会 2025年6月28日.

2. 体育系大学の教員養成課程における省察プログラムの骨子案の作成

－自己の核に迫る資質への追求に焦点を当てて－

九州体育・スポーツ学会第74回大会 2025年9月7日.

●その他

なし

以上